

カ タ リ ナ

学報 第26号

St. Catherine University

聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部

2011. 6. 1



聖カタリナ大学第24回

聖カタリナ大学短期大学部第46回 入学式式辞

学長 ホビノ・サンミゲル



春、一年間でもっとも美しい季節を私たちは迎えました。この季節、美しい花が咲き、草が萌え、生命がもう一度蘇えるような印象を与えてくれます。日本の春の美しさの象徴は桜の花です。もうすぐその美しさは私たちの心を喜ばせるでしょう。

特に今年、桜の花は特別な意味を持っていると思います。それは癒し、慰め、そして希望という意味です。わが国は東北・東日本大震災のために約2万7千人の方々が尊い生命を失われ、また大勢の方々が家や職場・学校を失うなど、甚大な被害を受けました。私はこの場をお借りして、まず、亡くなられた方々のご冥福を祈り、また今も尚、災害と戦っている方々のために、心と体の癒しを、そして人々が希望を見出し、一日も早く復興できるように、神様の恵みを祈りたいと思います。春を告げてくれる桜の花が、多くの皆さんにとって心の癒し、慰め、希望の象徴となるようにと、願ってやみません。

さて同じように春を迎えたこの松山で、本日、聖カタリナ大学・短期大学部に多くの優秀な若者が入学しました。心より大きな慶びを申し上げたいと思います。そしてフィリピン、中国と韓国から入学した留学生を歓迎すると共に、心よりお祝いを申し上げたいと思います。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

また、ご来賓の皆様には、お忙しい中、私たちと共にこの慶びを分かち合うために、ご列席を賜りまして心より感謝を申し上げます。特に、本日は韓国の釜山カトリック大学校から、ユン・キョンチョル総長、ソン・ヒャンスク社会福祉学部長、ウォン・ソンヒョン入学広報所長にも

ご臨席いただけましたことに重ねて感謝申し上げます。昨日、釜山カトリック大学校と聖カタリナ大学は、文化や研究など、様々な分野で教員と学生の交流をするための協定を結びました。これから両大学は姉妹校として、共に発展していくことを祈りたいと思います。また、以前より深い交流を続けている韓国のウソン大学校から、キム・ハクナム医療福祉学科長がご出席くださっています。本当にありがとうございます。

そして保護者の皆様には、あらためて心よりお慶びの言葉を申し上げます。皆様はこの若者のために大きな犠牲を払い、愛情を持ってこの日まで支え、導いてこられました。彼らをお預かりする学長として心より感謝いたしますと共に御礼申し上げます。

さて新入生の皆さん。皆さんは、今日から本学の学生になりました。本学はまだ若い大学です。短期大学部は今年度で創立44周年、大学はまだ24周年です。しかし、教職員と学生の力で、素晴らしい伝統をつくりながら発展してきました。その発展の成果として、この4月から社会学の分野の新学科をスタートさせることにもなりました。それは「人間社会学科」です。この新しい学科も、他の学科と同じように、社会に貢献できる優秀な人材の養成を目指しています。今日入学した第1期生の皆さんには、新学科のしっかりとした土台と、素晴らしい伝統の第一歩を築いていただきたいと思っております。

新入生の皆さん、今日から大学生として生活がスタートします。大学生の仕事は、心身を成長させると共に、社会に奉仕するための準備をすることです。高等教育機関

である大学は、高いレベルでの学問を通じて、専門分野での知識を習得するところです。また人格形成のための、高い倫理価値を身につける場所でもあります。皆さんはそのために、毎日努力しなければなりません。

本学は多くの大学にはない特徴があります。それはカトリック大学として、キリスト教のヒューマニズムに基づいて、人間の生きる理由と目的を教えているということです。私たちは皆さんに、私たちの歴史を支配している神のことを学ぶ機会を与えています。

私は先ほど、本学はまだ若いと言いましたが、本学の建学の精神は、実はとても長い歴史に支えられています。本学は聖ドミニコ修道会に属しています。聖ドミニコ修道会は、キリスト的な愛を人々に与えるため、そして真理を探究するために、約800年前に、スペインの聖人であり学者である聖ドミニコによって設立されました。この800年もの長い間に、聖ドミニコ修道会は全世界に広がり、多くの学校、大学、研究所を設立し、国際社会に大きな貢献をしてきました。本学の名前の由来となっている、聖女カタリナは、修道会の活動を通じて国際社会で活躍した、ヨーロッパ史に名前を残す一人です。聖女カタリナは14世紀のヨーロッパで、神秘主義者として、学者として、非常に大きな活躍をしました。また、福祉の分野でも、貧しい人々の保護者になり、大きな心の光で、当時の社会を照らしました。その社会に対する貢献から、女性として初めて、教会の博士という称号を、カトリック教会から受けたのです。ですから、本学は、ドミニコ会による教育という、長い長い伝統を受けついでいることとなります。

本学のモットーは、聖ドミニコ修道会のモットーである「真理」と「キリスト教的愛」でなっています。愛について聖女カタリナは、「Charity for your neighbors」、すなわち、人々を大切にしないと、「対話」という本にしるしました。キリスト的の愛は人々を幸せにします。先ほど朗読した聖書の言葉を思い出してください。「キリスト教的愛は人生にとって最高の道です」と聖パウロは述べました。私たちが人々を大切にしながら生きるならば、平和のなかで、安心して生活を送ることができます。それは人間にとって最高の恵みです。一方真理の探究は大学の大きな使命です。真理を語ることによって、人間関係に信頼が生まれます。信頼のあるところには、平和が生まれるのです。

皆さん、今日から愛と真理、すなわち人々を大切にするという徳を身につけてください。そして誠実な人間になり、謙虚な姿勢をもって、人々を幸せに導くための真理を探してください。愛と真理を自分の人生の目標にしてください。

21世紀の社会は益々、グローバル化が進んでいます。IT

技術のおかげで世界の人々はひとつの家族になろうとしています。先日日本であった災害を、全世界の人々はリアルタイムで知ることができました。知るだけでなく共に体験し、共に悲しみを味わうことになりました。そして民族や宗教が違って、人々の無事を祈り、復興を助けるという、世界的な連帯が示されたのです。21世紀の人類は国境を超えて、地球に生きる一員であることを、益々意識しなければなりません。本学はカトリック大学としてこのような国際社会を家族的に結び付けられるような教育を目指しています。その目的のために本学は、ICUSTA、すなわち、聖トマス・アクイナス大学国際協議会のメンバーになりました。聖トマス・アクイナスは聖ドミニコ修道会の一員であった、中世の学者です。彼が探究した真理は、今も世界を照らしています。この協議会の加盟校は5大陸に広がり、約40の大学が会員になり、そこで50万人以上の学生が学んでいます。皆さんが希望すれば、世界中の大学に留学することができるのです。

皆さんが将来、ひとつの会社や地域社会で働くことも大切ですが、国際的な精神で社会貢献できるように、しっかりと準備してください。また就職活動は今日から始まっていると意識してください。社会が望んでいるのは、豊かな人格を持っている人です。自分で考え、自分で判断し、良心に従って行動する人です。将来、どこに行っても通じる専門家になれるよう、また愛と高い倫理的価値と宗教的真理を持つ人となれるよう、本学で学び、訓練を受けてください。

本学は皆さんが学生生活を送るためのすばらしい環境を持つだけではなく、温かい家庭的な雰囲気を持っています。皆さんには教職員と学生との家庭的な交わりの中で友情を培い、豊かな人格を形成していただきたいのです。本日から、聖カタリナ大学の学生としての誇りを持って生き、学問の研究を通じて真理を愛し、また普遍的価値に基づく優しい心を持つ人間になってください。そして何よりも、楽しい学生生活を送ってください。皆さんが将来の社会へ豊かに貢献できるように成長することを祈り、私の挨拶を終わりたいと思います。



●大学のロゴマーク(SCU)を制定

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部では、現在使用されているロゴマークに加えて、国際的知名度と信頼性をより一層確実にすることを目的として、新たな大学のロゴマークを制定いたしました。

今後、このロゴマークは、主に広報的なものとして、学内外へ発信するコミュニケーション媒体(広報誌などの印刷物、Webサイト等)に使用する予定です。

なお、SCUの名称は以下のとおり省略しています。

S (Saint = 聖)

C (Catherine = カタリナ)

U (University = 大学)



●学長と学生との懇談会(第10回)を開催

2月15日(火)、平成22年度「学長と学生の懇談会」を2号館238演習室で行いました。懇談会では、学長、副学長、人間健康福祉学部長、保育学科長、学生部長と、学生とが軽食をとりながら、リラックスした雰囲気の中で率直な意見交換を行いました。

この懇談会は、学生の声を直接聞くことによって、今後の教育改革や学生支援、さらには大学運営に役立てることを目的として毎年開催しています。

学生からは学習環境や授業の内容に関することなど、学生生活の中で、学生が感じていることや要望等を、大学に直接伝えることができる有意義な機会となりました。



●国際交流協定の締結

聖カタリナ大学は、釜山カトリック大学校と国際交流協定を4月1日(金)に締結しました。

この相互協力協定は、大学間の文化的交流、学術進歩、両国民の友情の絆を強め、教育の国際化を目的とするものです。

今後は、学生の交流、教員及び研究者の交流について推進していきます。



●平成23年度後援会奨励表彰

5月19日(木)、母をたたえる日の行事に併せ、後援会長から後援会奨励金の授与が行われました。この奨励制度は、在学生(大学2・3年生、短大2年生)のうちから、学業・人物ともに優れた学生に後援会から奨励金を授与し、さらなる勉学への励みとしてもらうものです。

今年度の表彰者は以下の皆さんです。

青木 映憲 さん(大学2年)

泉 璃恵 さん(大学3年)

久井 静夏 さん(大学2年)

石山 祥子 さん(短大2年)

小笠原 涼 さん(大学2年)

村上 舞 さん(短大2年)

平野 陽子 さん(大学3年)



◆◆平成 22 年度後期行事 (H22.10.1 ~ H23.3.31)◆◆

月	日	曜	区	行 事	
10	1	金	大	まつやまシニアカレッジ	
				FD委員会	
	2	土	大	入試・募集委員会	
				AO入試面接、外国人留学生指定校推薦入試 編入学試験(一般Ⅰ・指定校推薦・提携校推薦)	
				社会福祉士国試対策講座[4回生]	
				短 AO入試面接	
	3	日	大	社会福祉士国試対策講座[3・4回生]	
	4	月	大	教授会	
				人事委員会	
	5	火		図書館委員会	
	9	土	大	社会福祉士国試対策講座[3・4回生]	
	10	日	大	社会福祉士国試対策講座[4回生]	
	11	月	大	社会福祉士国試対策講座[4回生]	
	12	火	大	生涯学習推進委員会	
				教務委員会	
	13	水		理事長講話	
	15	金	大	まつやまシニアカレッジ	
				選考教授会、人事委員会	
				短 教務委員会、保育学科会議	
	16	土	大	社会福祉士国試対策講座[4回生]	
	17	日	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]	
	22	金		人間文化研究所フォーラム	
	26	火		SD委員会	
	27	水		大学訪問(松山西中等教育学校3年生)	
				キリスト教研究所フォーラム	
	28	木	短	FD委員会	
	29	金		危機管理委員会	
	11	1	月	短	保育実習[保1] (～11/13)
		2	火		広報委員会
3		水	大	社会福祉士国試対策講座[4回生]	
4		木	大	会計監査(～11/5)	
				まつやまシニアカレッジ	
				短 学部年間計画協議会 教授会	
6		土	大	推薦入試(指定校、専願、スポーツ)	
				短 推薦入試(指定校、専願、スポーツ、外国人留学生指定校) 社会人入試Ⅰ期	
				入試・募集委員会	
8		月		教授会	
11		木		SD委員会	
12		金	大	合同学科会議、入試・募集委員会、人事委員会	
13		土	大	指導教員と保護者との個別面談	
				短 社会福祉士国試対策講座[4回生]	
14		日	大	社会福祉士国試対策講座[3・4回生]	
16		火	大	教授会、FD委員会	
18		木	大	就職委員会大学部会	
19		金	大	まつやまシニアカレッジ	
				短 保育学科会議 安全対策推進事業	
20		土	大	社会福祉士国試対策講座[4回生]	
21		日	大	社会福祉士国試対策講座[3・4回生]	
24		水		キリスト教研究所フォーラム	
26		金		奨学制度運営委員会	
				人間文化研究所フォーラム	
27		土	大	推薦入試(一般)	
				短 推薦入試(一般)、社会人入試Ⅱ期	
28		日	大	社会福祉士国試対策講座[4回生]	
29		月	大	入試・募集委員会、教授会	
30		火	大	学生生活委員会	
				短 入試・募集委員会、教授会	
12		2	木	大	教職課程委員会

月	日	曜	区	行 事	
12	3	金	短	研究紀要編集部会	
				教授会	
	4	土	大	元気な集落づくり事業	
				短 社会福祉士国試対策講座[4回生]	
	5	日		骨まで食べられる魚試合	
	7	火	大	大学訪問(潮見保育園)	
				教務委員会	
	8	水		保健講話	
	9	木		ボランティアセンター運営委員会	
	10	金	大	将来計画委員会、図書館委員会	
				短 大学訪問(大洲農業高等学校) 教授会	
	11	土	大	保育学科会議	
	11	土	大	人間社会科学部開設記念フォーラム	
	12	日	大	社会福祉士国試対策講座[3・4回生]	
	14	火	大	SD委員会	
				就職委員会大学部会	
	15	水		キリスト教研究所フォーラム所員会	
	17	金		教育充実ワーキングチーム会議	
	18	土	大	社会福祉士国試対策講座[4回生]	
				骨まで食べられる魚試合	
	19	日	大	社会福祉士国試対策講座[3・4回生]	
	20	月		学内クリスマス	
	21	火	大	冬季休業開始	
				福祉・介護サービスチャレンジ講座(～12/22)	
				短 精神保健福祉援助実習報告会・連絡会、人事委員会	
	27	月		事務職員研修	
	1	7	金		冬季休業終了
	8	土	大	社会福祉士国試対策講座[3・4回生]	
	13	木	短	FD委員会	
14	金	大	入試・募集委員会		
			短 教授会、人事委員会 教授会		
17	月	短	幼稚園教育実習[保1] (～1/28)		
20	木	大	学内合同企業説明会		
21	金	短	保育学科会議		
22	土	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]		
24	月		SD委員会		
25	火		学園奨学生面談、図書館委員会		
26	水		キリスト教研究所フォーラム		
27	木		ボランティアセンター講演会		
28	金		人間文化研究所フォーラム		
29	土	大	一般入試		
			短 一般入試、外国人留学生入試、社会人入試Ⅲ期		
31	月		入試・募集委員会、教授会		
2	2	水	後学期授業終了		
			短 教育充実ワーキングチーム会議		
3	木	短	入試・募集委員会、教授会		
4	金	大	後学期試験(～2/9)		
			学部長選挙		
9	水	大	入試・募集委員会、人事委員会、教授会		
			短 外国人留学生入試、編入学試験 後学期授業終了		
10	木	大	生涯学習推進委員会		
			社会福祉実習委員会		
11	金		人間文化研究所公開セミナー		
12	土	短	保育学科実習懇談会		
14	月	大	介護福祉実習[介2] (～3/11) [介3] (～2/18)		
15	火	大	第10回「学長と学生との懇談会」		
			短 FD委員会		
16	水	大	学科長選挙		
			人事委員会		

月	日	曜	区	行 事
2	16	水	大	精神保健福祉援助実習[社3] (~3/31)
		金	大	教務委員会
	19	土	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]
		日	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]
	20	月	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]
		火	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]
	21	水	大	合同学科会議、就職委員会大学部会
		木	大	一般入試
		金	大	入試・募集委員会、教授会、人事委員会
	22	土	短	一般入試、社会人入試IV期
		日	短	入試・募集委員会
		月	短	教授会
	23	水	大	保育学科会議、教授会
			短	保育実習[保1] (~3/5)
木		短	広報委員会、キリスト教研究所フォーラム	
金		短	教務委員会	
24	木	短	奨学制度運営委員会	
		金	奨学制度運営委員会	
	土	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]	
25	金	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]	
	土	短	人間文化研究所フォーラム	
26	日	短	教授会	
	月	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]	
27	火	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]	
	水	短	教授会	
28	木	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]	
	金	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]	
29	土	短	教授会	
	日	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]	
3	1	火	SD委員会、予算委員会	
		水	SD委員会、予算委員会	

月	日	曜	区	行 事
3	3	木	大	人事委員会
		土	大	後援会役員会
	5	日	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]
		月	大	社会福祉士国試対策講座[3回生]
	7	水	短	保育実習[保1] (~3/17)
		木	短	人間文化研究所所員会
	10	金	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]
		土	短	学科会議
		日	短	入試・募集委員会、教授会、人事教授会
	11	月	短	入試・募集委員会
		火	短	キリスト教研究所所員会
	12	水	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]
		木	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]
	13	金	短	社会福祉士国試対策講座[3回生]
土		短	卒業式	
15	日	短	卒業式	
	月	短	ボランティアセンター運営委員会	
16	火	短	社会福祉実習委員会、教職課程委員会	
	水	短	奨学制度運営委員会	
18	木	短	奨学制度運営委員会	
	金	短	春のオープンキャンパス	
19	土	短	春のオープンキャンパス	
	日	短	春季休業(~3/31)	
21	月	短	春季休業(~3/31)	
	火	短	事務職員研修	
22	水	短	FD研修会	
	木	短	入試・募集委員会	
25	金	短	入試・募集委員会	
	土	短	教務委員会	
29	日	短	教務委員会	
	月	短	学生生活委員会	

◆◇ 平成 22 年度卒業生就職状況 ◇◇

平成23年5月1日現在

1. 業種別状況

【聖カタリナ大学】

業種/学科	就職者数				
	社会福祉	福祉経営	合計		
企 業	建設/製造	2	1	3	
	情報通信/運輸、郵便	2	1	3	
	卸売、小売	6	5	11	
	金融、保険	0	0	0	
	サービス(宿泊、複合他)	4	4	8	
	その他(電気、不動産他)	2	1	3	
	教育、学習支援	1	0	1	
	医療、福祉	医療、保健衛生(病院他)	13	1	14
		児童養護施設	1	0	1
		老人福祉施設	48	16	64
身体障害者福祉施設		5	4	9	
知的障害者福祉施設		7	1	8	
精神障害者福祉施設		0	0	0	
公 務	その他	3	2	5	
	国家公務員	0	0	0	
	地方公務員	2	0	2	

就職者数	96	36	132	
(県内)	(82)	(31)	(113)	
(県外)	(14)	(5)	(19)	
卒業生内訳	就職未定者数	6	8	14
	就職希望者数	102	44	146
	就職率	94.1%	81.8%	90.4%
	進学決定者	0	2	2
	家事・その他	10	13	23
	卒業生数	112	59	171

【聖カタリナ大学短期大学部】

業種/学科	就職者数	
	保育	
教 育、 学 習 支 援	公立幼稚園	0
	私立幼稚園	33
	その他の教育、学習支援業	1
児 童 福 祉	公立保育所	4
	私立保育所・託児所	25
	児童福祉施設	3
	その他の児童福祉事業	0
医 療、福 祉	医療、保健衛生(病院他)	1
	その他の福祉、介護事業	7
企 業	卸売、小売	1
	宿泊、飲食サービス	2
	金融、保険	1
	その他	2
公 務	国家公務員	0
	地方公務員	1

就職者数	81	
(県内)	(81)	
(県外)	(0)	
卒業生内訳	就職未定者数	3
	就職希望者数	84
	就職率	96.4%
	進学決定者	2
	家事・その他	4
	卒業生数	90

(6Pへ続く)

2. 職種別状況

【聖カタリナ大学】

職種/学科	就職者数		
	社会福祉	福祉経営	合計
医療ソーシャルワーカー(MSW)	2	1	3
精神科ソーシャルワーカー(PSW)	3	0	3
相談員(社会福祉主事他)	5	1	6
支援,相談(知的・身障・児童他)	13	5	18
介護福祉士・介護・支援,相談(老人)他	49	16	65
その他の福祉専門職(保育士含)	2	1	3
教員(高等学校のみ)	1	0	1
事務	6	2	8
販売,営業	11	5	16
その他(サービス,保安,生産他)	4	5	9
合計	96	36	132

【聖カタリナ大学短期大学部】

職種/学科	就職者数
	保育
幼稚園教諭	33
保育士	31
その他の教員	1
社会福祉専門職業/介護サービス職業	8
事務	3
販売	1
その他(サービス職業/生産工程他)	4
合計	81

◆◇平成22年度教授会議題(後期)◇◆

【聖カタリナ大学教授会議題】

H22.10.4 第8回

1. 平成23年度AO入試合格者選考について
2. 平成23年度編入学一般入試Ⅰ期合格者選考について
3. 平成23年度編入学国際提携校推薦入試合格者選考について
4. 科目等履修生の受け入れについて

H22.11.8 第9回

1. 平成23年度指定校推薦入試合格者選考について
2. 平成23年度専願推薦入試合格者選考について
3. 平成23年度スポーツ特別推薦入試合格者選考について
4. 休学について
5. 退学について
6. 復籍について
7. 履修科目の登録の特別許可について
8. 韓国国際提携校からの編入学志願者にかかる入学試験の実施について

H22.11.16 第10回

1. 平成23年度特別推薦入試(専願推薦)合格者選考について

H22.11.29 第11回

1. 平成23年度一般推薦入試合格者選考について
2. 平成23年度国際提携校編入学試験合格者選考について

H22.12.10 第12回

1. 平成23年度学年暦について
2. 聖カタリナ大学学則の一部改正について
3. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究叢書出版に関する規程の一部改正について
4. 学長賞の選考について
5. 学部長候補者選考に係る選挙管理委員の選出について

H23.1.14 第13回

※報告・連絡事項のみ

H23.1.31 第14回

1. 平成23年度一般入試A日程合格者選考について

H23.2.9 第15回

1. 平成23年度大学入試センター試験利用入試前期合格者選考について
2. 平成23年度外国人留学生特別入試合格者選考について
3. 平成23年度第3年次編入学一般入試Ⅱ期合格者選考について

H23.2.23 第16回

1. 平成23年度一般入試B日程合格者選考について
2. 平成22年度卒業判定について

H23.3.11 第17回

1. 平成23年度一般入試C日程合格者選考について
2. 平成23年度大学入試センター試験利用入試後期合格者選考について
3. 卒業認定について
4. 進級判定について

5. 退学について
6. 休学について
7. 復学について
8. 転専攻について
9. 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 学科長に関する規程の制定について

【聖カタリナ大学短期大学部教授会議題】

H22.10.4 第8回

1. 平成23年度AO入試Ⅱ期合格者選考について

H22.11.5 第9回

1. 聖カタリナ大学短期大学部学則の一部改正について
2. 退学について
3. 復籍について

H22.11.8 第10回

1. 平成23年度指定校推薦入試合格者選考について
2. 平成23年度専願推薦入試合格者選考について
3. 平成23年度スポーツ特別推薦入試合格者選考について
4. 平成23年度社会人特別入試Ⅰ期合格者選考について

H22.11.30 第11回

1. 平成23年度一般推薦入試合格者選考について
2. 平成23年度社会人特別入試Ⅱ期合格者選考について

H22.12.3 第12回

1. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究叢書出版に関する規程の制定について
2. 平成23年度学年暦について
3. 学長賞の選考について
4. 学科長候補者選考にかかる選挙管理委員の選出について

H23.1.14 第13回

※報告・連絡事項のみ

H23.1.31 第14回

1. 平成23年度一般入試A日程合格者選考について
2. 平成23年度社会人特別入試Ⅲ期合格者選考について
3. 平成23年度外国人留学生特別入試合格者選考について

H23.2.3 第15回

1. 平成23年度大学入試センター利用入試前期合格者選考について

H23.2.23 第16回

1. 平成23年度一般入試B日程合格者選考について
2. 平成23年度社会人特別入試Ⅳ期合格者選考について

H23.2.25 第17回

1. 平成22年度卒業判定について

H23.3.10 第18回

1. 平成23年度大学入試センター試験利用入試後期合格者選考について
2. 除籍について
3. 卒業の認定について

◆◆ 平成 22 年度学校法人聖カタリナ学園決算概要 ◆◆

■ 1. 資金収支決算

資金収支決算は、資金収入が38億15百万円(予算比+9百万円)、資金支出が38億88百万円(予算比△31百万円)となりました。結果、差額74百万円を前年度繰越支払資金から減算し、次年度繰越支払資金は、21億25百万円となりました。

■資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度の支払資金（現金&いつでも引き出すことのできる預貯金）の収入及び支出の顛末を表します。

(注) 表中数字の単位は、「百万円」です。
百万円未満は四捨五入して記載しています。

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	増 減 (b)-(a)
前年度繰越支払資金	2,199	2,199	—
当年度	資金収入	3,806	3,815
	資金支出	3,919	3,888
	収支過不足	△113	△74
次年度繰越支払資金	2,086	2,125	39

■ 2. 消費収支決算

消費収支決算は、帰属収入が35億80百万円(予算比+41百万円)、基本金組入額が76百万円(予算比△3百万円)となり、その結果、消費収入は35億3百万円(予算比+44百万円)となりました。一方、消費支出は37億33百万円(予算比△53百万円)となり、当年度消費収支差額は△2億30百万円(予算比+97百万円)となりました。この結果、翌年度繰越消費支出超過額は、28億37百万円の予算に対し、決算では27億40百万円となりました。

■消費収支計算書：当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を表します。一般企業会計の「損益計算書」に当たります。

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	増 減 (b)-(a)
①帰属収入	3,538	3,580	41
②基本金組入額(△)	79	76	△3
③消費収入①-②	3,459	3,503	44
④消費支出	3,786	3,733	△53
当年度消費収支差額 ③-④	△327	△230	97
前年度繰越消費 収支差額	△2,510	△2,510	—
翌年度繰越消費 収支差額	△2,837	△2,740	97

■ 3. 貸借対照表

貸借対照表は、本年度末(平成23年3月31日)において、資産の部153億61百万円、負債の部16億30百万円、基本金の部164億71百万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費支出超過額は27億40百万円となりました。なお、資産総額から負債総額を減じた「正味財産額」は、137億31百万円です。

■貸借対照表：一定時点(本学は3月末現在)の資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

科 目	本年度末 (a)	前年度末 (b)	増 減 (a)-(b)
資産の部			
固定資産	12,896	13,041	△145
流動資産	2,465	2,614	△149
合 計	15,361	15,655	△294
負債の部			
固定負債	892	1,062	△169
流動負債	738	709	29
基本金の部			
基本金	16,471	16,395	76
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費 収支差額	△2,740	△2,510	△230
合 計	15,361	15,655	△294

* 参 考 *

学校法人は、一般事業法人と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通じた人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、経営という視点を欠き、過大な設備投資や場当たりの運営を続けていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招いてしまいます。こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和46年に文部省令第18号として制定された「学校法人会計基準」です。学校法人は、この「学校法人会計基準」に従って計算書類を作成することが義務づけられています。*****

◆◆ 人 事 ◆◆

《平成23年3月31日付け》 【退職】

人間健康福祉学部
教授 松友 昭繁
教授 矢野 宏光
講師 永嶋 信二郎
助教 田中 真希
助手 本田 千里
学生部事務部長
(兼入試広報課長) 宮本 謙
法人事務局長 中本 賀崇

《平成23年4月1日付け》 【新規採用】

人間健康福祉学部
教授 久保 玄次
講師 徳田 剛
講師 丹藤 克也
講師 長尾 由希子
助教 武村 淳司
助教 高木 寛之
助手 丸岡 豊
学生支援課
事務職員(非) 重松 斐美
学生部事務職員(非)
相談役 豊田 達雄

【昇任】

人間健康福祉学部
教授 恒吉 和徳
講師 曾我部 敦介
学生支援課課長 宮田 和美
就職課課長補佐 新名 敏弘
法人事務局長 石川 直

【配置換】

入試課課長 長戸 洋次

《平成23年5月1日付け》

【新規採用】

宗教主事(非) 兪 鍾弼

◆◆ 新任教員紹介 ◆◆



くぼ げんじ
久保 玄次

- ① 日本大学大学院文学研究科 修士課程教育学専攻修了
- ② 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 教授
- ③ スポーツ心理学、健康心理学、体育理論、体育実技
- ④ 平成23年4月1日



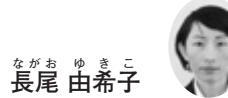
とくだ つよし
徳田 剛

- ① 神戸大学大学院文化科学研究科 博士課程社会文化専攻単位取得退学
- ② 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 講師
- ③ 社会学、社会調査法、社会学原論、経済社会学
- ④ 平成23年4月1日



たんどう かつや
丹藤 克也

- ① 北海道大学大学院文学研究科 人間システム科学専攻博士課程修了
- ② 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 講師
- ③ 心理学、心理検査法、人間社会学概論
- ④ 平成23年4月1日



ながお ゆきこ
長尾 由希子

- ① 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻比較教育社会学コース 博士課程単位取得満期退学
- ② 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 講師
- ③ 社会学、社会調査論、教育社会学
- ④ 平成23年4月1日



たけむら じゅんじ
武村 淳司

- ① 日本福祉大学通信教育学部福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科卒業
- ② 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 助教
- ③ 介護過程、介護総合演習、介護実習、生活支援技術
- ④ 平成23年4月1日



たかぎ ひろゆき
高木 寛之

- ① 東洋大学大学院社会学研究科福祉社会システム専攻修士課程修了
- ② 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 助教
- ③ 社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術論
- ④ 平成23年4月1日



まるおか ひろし
丸岡 豊

- ① びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部競技スポーツ学科トレーニング・健康コース卒業
- ② 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 助手
- ③ 体育実技、トレーニング実習、健康スポーツ実習
- ④ 平成23年4月1日

- ① 最終学歴
- ② 現職
- ③ 主要担当科目
- ④ 就任年月日

◆◆ 研究室探訪 ◆◆

聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 教授 矢島 伸浩

私は学生時代、「思慮深くして動かぬ者であるよりも、思慮もなく動く者であれ」という詩人J. キーツの言葉を体現するかのように、海を越え、とにかく力任せに旅を続けた。東南アジア諸国を目指した最初の船旅から、途中で旅費が底をつきアルバイトをする羽目になった北米の旅、農作業に従事しながら移動した南米の旅など、一風変わった旅を続けてきた。

様々なメディアを介し、居ながらにして世界中の情報をリアルタイムで入手できる現代においては、わざわざ現場に自ら足を運ぶことを疑問視する人も少なからずいるであろう。しかし、それらは所詮、他人の目や価値観といったバイアスのかかった二次情報にすぎず、自らの五感で収集した一時的情報とは迫力や臨場感、さらには得られる感銘の度合いには、想像以上に大きな隔りがある。そして、何よりも現地の人々と直接触れ合い、異文化を実感するといった経験は、実際に現地に赴いてみないと得られない貴重なものである。

これらの行動の原動力は、同郷の大先輩である小田実が『何でも見てやろう』の冒頭で述べている「理由はしごく簡単であった。私はアメリカを見たくなったのである。要するに、ただそれだけのことであった。それ以外に言いようがない。」という単純明快で純粹な好奇心、野次馬根性であった。彼の「単純で子供っぽいかもしれないが、ニューヨークの摩天楼とミシシッピ河とテキサスの原野に憧れて渡米するのだ」という言葉は、私の突飛な旅を正当化するのに格好の言い訳を与えてくれた。かくして私は、突然変異で寿命が限られているので早く行かないと見そびれてしまうという理由で白いゴリラに会いにスペインへ、CMでスフィンクスの前で飲む清涼飲料水がやたらと旨そうに見え試してみたくなりエジプトへ、猛魚ピラニアを自分自身の手で釣って刺身にしたりブラジルへ、という具合に他人からは奇妙な愚挙・暴挙を重ねてきた。それは他人から見れば、脈絡のない無計画で危ういものと映ったに違いない。

一般に、旅には予想外のハプニングはつきもので、それを乗り越えるための苦労が大きいほど、その旅は思い出深いもの、意義深いもの

になると思われる。このことは、“travel”の語源が苦痛や労働を意味する“travail”、さらには拷問に使う責め具を指すラテン語の“tripalium”に遡ることからも納得できる。その意味では、私が体験してきた旅はいずれも、私の精神的成長を促してくれた、忘れ難い財産であるといえる。実際、当時画一的な価値観の中で閉塞感に苛まれ、自信と余裕を喪失していた私が旅を通して、多様な考え方や感じ方があることを実感し、それを理解し受容しようとすることや素直に感謝し他人に優しく接することの難しさ・大切さを学び、随分と心が軽くなっていったのを覚えている。人生で大切なもののエッセンスを、旅から学んだといっても過言ではない。

経営学や地域研究を行っている私にとって、また実務家から学者になった私にとっては、「現場にこそ、あらゆるヒントが隠されている」との思い・信条が強くある。かつて本田宗一郎が唱えた「現場で、現実起こっている、現象にきちんと目を向けて行動せよ」という三現主義の教えには重みと深い含蓄を感じる。

私は、これらの自己の経験や思いというデリケートなニュアンスを持った暗黙知を、少しでも学生たちにわかりやすく伝えるよう心掛けている。日々、まさに現場における改善活動の実践である。また、私の研究室では、物事を考える際にも、行動に移す場合にも、常にグローバルな視点とローカルな視点を併せ持つことの大切さを強調している。地球規模で考え地域特性にあった行動を実行すると同時に、地域の視点から生まれたきめ細やかで丁寧な発想を地球規模で実践する、いわゆるグローバルな思考と行動ができるような素地を学生の間に根づかせたいと考えている。

商科系の大学から、一見対極な位置にあると思われがちな福祉系の大学へと、私は新たな旅を始めた。収益性と公共性のバランスをとり「ソーシャル・イノベーション」をどのように起こすかが盛んに議論され注目されているこの時期に、このような道を歩みだしたのは、意義深く価値あることであると確信している。これこそ、まさに「計画された偶発性」の賜物なのかもしれない。

聖カタリナ大学・短期大学部学報

〒799-2496 松山市北条6 0 0番地

T E L . 089 - 993 - 0702(代)

<http://www.catherine.ac.jp>

編集・発行

聖カタリナ大学

聖カタリナ大学短期大学部

広報委員会